

自己評価及び外部評価票

「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。(セル内の改行は、(Alt+Enter)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	地域に根ざした目標は毎年スタッフ全員で検討して作り、その目標が個人目標に盛り込まれるようにし皆で取り組んでいる。	理念に対し事業所目標、個人目標を設定して半期ごとに評価している。目標の実践、評価は個人に対して管理者、問題を含んでいるものについては複数で面接するなど、理念共有について細かい配慮と努力が伺われる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の行事(夏まつりや敬老会、園児来所など)に参加したりして交流に努めている。	自主的積極的に近隣へのアピールをして地域の住人としての位置づけが出来ている。自治会の役員の会議参加や、地域の公民館行事への参加も普通に行われている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	事業所の運営委員会では近隣の高齢者の情報が寄せられることもあり、認知症高齢者の支援に対して助言できることもある。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議で得た情報はスタッフ会議にて報告し、スタッフ全員のものとなるようにしている。	2ヶ月に1回は開催している。区長さんが参加することになって地域の情報が入りやすくなった。職員が運営推進会議の内容を理解し、情報共有も行われている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力を築くように取り組んでいる。	運営推進会議だけでなく困りごとがあった場合には連絡し問題の解決に結びつけるよう努めている。他専門医を紹介して貰い、認知症症状の改善したケースがあった。	認知症で問題の有る利用者のことを、地域包括に相談。専門医の紹介を頂き受診、薬の処方など大いに助かった事例があった。地域の連携がうまく取れている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	拘束について日頃のケアの中で確認し、拘束の無いケアに取り組んでいる。玄関の施錠もしないよう努めている。	身体拘束についてスタッフ会議で読みあわせをしながら研修している。実質拘束の必要のあるものについては3原則に則ってやるということで法人として統一している。変な人が侵入する心配もあるが現在は玄関も施錠はしていない。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	スタッフ会議で日常的に虐待が無いが確認し理解と学習を行っている。		

グループホーム栗田ゆうゆう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	必要に備え学習と準備を行なっている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	今年度新規契約者は居なかったが新規契約においてや改定があった場合は、重要事項説明書、契約書を提示し利用者家族に十分に説明し理解納得いただけるよう努めている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議にはなるべく多くの利用者家族や利用者が参加してもらえるよう声がけしている。来所時には利用者の様子や事業所の情報を伝え、利用者には日頃の関わりの中で意見や要望が言えるよう努めている。	生活記録、情報ノートに書き留めてカンファレンスに反映させている。法人として利用満足度アンケートは毎年実施しているようで、満足度の高いデータがある。家族の訪問は結構あるのでそのつど意見聴取に努めている様子がわかる。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	個人面談以外にもスタッフ会議や日頃の勤務の中で意見や提案を聞く機会を持つようにし運営に反映するよう努めている。情報ノートは継続している。	スタッフ会議を月1回開催してカンファレンスをしている。よく意見が出ていて利用者の立場に立って方向付けされている様子がよくわかる。欠席者に対しては必ず閲覧されるように管理されている。	今後のことを考えて、利用者情報、個人記録のデータ化を考えてみることも必要かと思います。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	本部管理者は事業所に訪問しスタッフの状況を把握している。定期昇給などがあり働き甲斐を持てるよう努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	通信教育は必ず受講し自身がスキルアップすると共に、法人内の研修に参加したりスタッフ会議で学習会を行うようにしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	定期的に民医連グループホーム連絡会の研修などに参加する機会がある。そこで得た情報はスタッフ会議でおろし共有している。		

グループホーム栗田ゆうゆう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	今年度新規契約者は居なかったが新しい環境へスムーズに馴染めるようスタッフは関わりを多く持ち、利用者同士に対してはその架け橋になるよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入所してからも家族が利用者に対しての思いや事業所への要望などが率直に伝えられる雰囲気作りや関係となるよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人・家族が必要としている支援を情報収集した中から見極め、サービスに結びつけている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者・スタッフ・事業所を支えて貰っている全ての人たちが一軒の家、家族に感じていると。利用者からは家事をはじめ多くの知恵や工夫、戦争体験などを聞き学ぶことが多い。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	日頃の様子や状態を、お便りや来所の折に伝えたり、行事への誘いの中で家族と利用者の関わりを多く持てるよう努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族との外出や外泊を勧め、関係が薄れないよう努めている。頂いた手紙への返信や希望がある場合は電話をかけるなどの支援をしている。	家族訪問が結構多いので、利用者との絆は深いと思われる。又、家族との外出や、外泊も行われていて、なじみの環境作りへの努力が感じられる。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の相性や関係を把握し、穏やかに過ごせるよう支援している。時には関係がギクシャクすることもあるが間に入って後を引きかないような支援に心掛けている。		

グループホーム栗田ゆうゆう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後もお便りを送ったり面会したりしてその後の経過や情報を得るようにし、必要に応じて相談や支援に努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の中で、本人の希望や思いを聞くようにしている。思いを表出できない利用者についてはスタッフ会議のカンファレンスで日頃の様子から利用者の思いを察し検討している。	個々の生活記録につぶやき記録を残している。自分の意思をうまく表現できない利用者の思いの一端を記録し、スタッフ会議でみんなで理解するように努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式の書式を用い情報の収集を行っている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	センター方式の書式の他に、生活記録や情報ノートを使用し現状の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	家族には介護計画の立案に当たって、来所の折や都合をつけて事業所において頂き話し合いの機会を持ち意見や希望に叶った介護計画を作成するよう努めている。	来所した家族の意見、生活記録などを参考にしてケアカンファレンス、スタッフ会議で検討したものをケアマネが文書化している。管理者とケアマネで更に検討して作成し家族の承認を得ている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	スタッフ会議では皆で月に1度は利用者のカンファレンスを行うと共に日頃つけている生活記録や情報ノートを活用し介護計画の見直しを行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	急な受診や買い物等、柔軟な支援やサービスを行っている。		

グループホーム栗田ゆうゆう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	近隣住民の定期的なボランティア来所や運営委員会、運営推進会議等を通して、地域の情報を得て生きがいを持って生活できるよう支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	受診する場合は本人、家族の希望に沿った医療機関を受診するようにしている。適切な専門医療機関を受診することで症状の改善に繋がり、事業所もその医療機関との受診ツールが出来たケースがあった。	稲里クリニックから月1回医師の往診があり、薬剤師が薬を届けてくれている。週1回訪問看護師が来ていて、情報ノートを閲覧してから看護記録を書くようにして連携が取れている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回の訪問看護時には利用者の状態や気付きを記録しスムーズに伝えられるようにしている。定期的な訪問に関わらず特変があった場合は連絡し随時の訪問や適切な指示を受けることができる。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者家族の希望に沿った医療機関が選択出来るよう支援している。入院した場合は面会に行き、リハビリの様子を見学させてもらい退院後の生活の準備を行なっている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入所時にあらかじめ重度化した場合の方針の確認は行なっているが、入院された時などには折に触れ利用者や家族の考えを確認するようにしている。	重度化した時の対応について指針があり、入所時に各自同意書をもらっている。実際に重度化していく段階で、再度家族との話し合いを持ち確認の意味で署名をもらう予定である。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	学習会や訪問看護、往診等で緊急時の対応方法を確認している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難誘導訓練を行い万一の災害に対応出来るよう確認した。今年度は増床工事のため地域住民の参加する訓練が出来ていないため、工事完了後に行ないたい。	スプリンクラーは全箇所を設置している。現在新家屋を建設過程で整備の完成度は低いですが、吐き出し型の個室が増えたので避難しやすい状況が出来た。3食3日分の食料、水の備蓄は出来ている。これから賞味期限の管理をしていく。	改築が終わった時点での避難経路の策定、備蓄食料や水の再点検をして更なる安全管理に努めてください。

グループホーム栗田ゆうゆう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	常に年長者・人生の先輩であることを念頭におき、言葉かけ・対応には留意するように努めている。入所が長くなっても馴れ合いの関係にならず人格を尊重した対応に努めている。	風呂、トイレ、個室での介助の際必ず戸は閉めて個人のプライバシーの保護に努めている。プライバシーの保護と見守りとの境が難しいと感じているが、支援の高度化に向けての努力が感じられる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日頃のケアの中でゆっくり話を聞いたりして、遠慮や我慢の無いよう利用者の思いを表出できる雰囲気作りや対応に努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一日の流れは大まかに決まっているが、利用者の希望や個々の力量に合わせ過ぎていたようにしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入浴時や朝の更衣介助時には新しく着る衣類を利用者と一緒に選ぶようにしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	一人ひとりの嗜好の把握を行っている。野菜の下ごしらえや盛り付け、お茶入れ、片付けなど出来る範囲で行なっている。	現在の入所者は好き嫌いはなく、何でも食べてもらっている。年に2回ぐらいは外出に出かけて楽しく食事をしている。現在改装中で食事の手伝いが出来る環境ではないが、改装後又実施の予定である。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事チェック表にて水分、食事の摂取量などを把握している。また、体重測定を行い体重の変化も観察している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後の口腔ケアは必ず行い、清潔の保持に努めている。また、義歯洗浄は毎晩行い不具合があった場合は歯科受診の支援を行っている。		

グループホーム栗田ゆうゆう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	個々の排泄のパターンを把握しタイミングに合わせてトイレでの排泄が出来るよう支援している。入院後失禁対応であった利用者が帰所後、トイレへの誘いを繰り返すうちに尿意出現するようになった。	現在の入所者はリハパン5人、布パン1人で対応している。便意、尿意の有る人については都度、その他の人についても時間を見てトイレ誘導しているが、ほとんど失敗なくすごしている。排泄の個別支援が出来ている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	チェック表を用い排便のパターンや間隔を確認しスムーズな排便となるよう水分摂取に心掛け必要に応じて処置を行なっている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	週2・3回の入浴が出来るようにし、曜日や時間は決めていない。新たに入浴リフトを設置し浴槽への出入りの困難な利用者も安全に入浴出来るように支援している。	入浴拒否の人に対してもタイミングをずらすなどして週2回の入浴は確保している。現在は午後入浴で対応しているが、足浴、清拭などは夜の時間帯でも実施可能である。入浴リフトが設置され重度化対応の配慮がされている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	寝具を整えたり湯たんぽを使用したりして安眠出来る環境を提供している。不眠の利用者には状況に合わせて一緒に過ごしたりし入眠出来るよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	往診で処方された薬は薬剤師の内服指導を受け、スタッフ全員がその効果や副作用などを理解している。変化のあった場合は主治医や訪問看護に連絡し指示を仰いでいる。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	個々の生活歴の情報収集を行い現在出来ることに結びつけ生活の楽しみや張り合いを持てるよう支援している。洗濯畳みや居室の掃除などは毎日の日課となっている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	付き添いなどの点から外出は計画的に行なっているが、二三名の少人数の外出により天候などに合わせ日程の変更にも対応している。りんご狩りや善光寺外出に地域のボランティアが付き添ってくれている。	地域のボランティアの協力があり外出支援などもスムーズに行われている。改築が終わった時点でさらに外出しやすい環境を整えていく計画がある。家族の外泊支援などもあり、希望に添った外出がしやすい環境にある。	

グループホーム栗田ゆうゆう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>現在はお金を持っている利用者は居ないが必要に応じて所持できるよう支援していく準備がある。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>希望のあった時は電話をかけたり、便りの返事を書けるよう支援している。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居心地の良い空間作りを製作中。現在は広さの面で不便があるが工夫しながら過ごしている。</p>	<p>改築中などで現在は居心地のよい空間作りの計画中であるが、今までも行事の写真を掲示するなどの環境作りはされてきた。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>現在改築中で共用スペースが狭くなっているが狭いながらも自由時間に気の合った利用者同士でソファーにかけて過ごす姿が見られている。</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>写真や鉢植え等利用者の好みに合わせた空間作りに努めている。</p>	<p>個人の物が自由に配置され個性的な居室作りがされている。</p>	<p>居室が離れたりして、新築部分との格差が出ないような居室管理が必要と思われる。離れた部屋の管理に工夫が必要と思われます。</p>
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>玄関や廊下、ベッドサイドには手すりを設置し、安全に移動・歩行・立ち上がりができるよう環境整備に努めている。自室の表札やトイレ表示などで、建物内の設備が分かり易いようにしている。</p>		